



オリーブニュース

2月20日、札幌教会で行われました総会で、新しい役員が選出されました。新役員、協力員からの自己紹介、そして各女性会の様子をお伝えしましょう。

改めまして、よろしくお願いたします・・・・・・・・・・・・・・・・代表 近藤雅子

自分のポジションに甘えていたわけではありませんが、私はこれまで札幌教会、婦人会においては若輩ものであり、丁稚のような感覚でおりました。まだまだ諸先輩方からは学ぶことも多く、今もその立ち位置はあまり変わっていないような気分でおりましたので、今回、このような責務を負うこととなり自分には何が出来るのか未知なままです。この広い北海道という土地柄にあって、私たちはお互いに双方を行き来することは難しく、教区内の女性の会メンバーの距離感は近いとは言い難い現状にあるように思います。また、残念ながら女性会を運営していくのには限界を感じ、いくつかの教会ではそのような集合体が消滅してしまいました。私は改めて、今期の主題をつぶやきます。“主にあって共につながる仲間”。この言葉を科せられたこと、重いなと思いました。どのようにしたらこのみ言葉が達成されるのか正直、今はまったくわかりません。ただ、今回このお役を受けることになりまして、一つだけ決めたことは大変なことでしょうが、その中で楽しみを見つけていこうということです。

なるべくポジティブなスタンスで歩んでいきたいと思っておりますので、皆さまもどうぞ積極的なご意見等を反映させてください。

責任を果たして・・・・・・・・・・・・・・・・副代表 栗原朋友子

北海道特別教区婦人会が独自の教区婦人会として発足する前、まだ「日本福音ルーテル教会東教区北海道地区」に属していた頃、私は日本福音ルーテル教会東教区婦人会の役員の一としてご奉仕しておりました。その後、私は東教区を離れて1992～1997年札幌で生活したあと、いったん東京に戻り、2007年の初めに再び札幌に生活の場を移しました。私の教会生活（婦人会役員としての生活）は花の盛りをとっくに過ぎました。けれども、今回、北海道特別教区女性会の役員の一に加えられましたので、2年の任期中、老躯に鞭打って責任を果たすつもりです。

オリーブよ 育て・・・・・・・・・・・・・・・・会計 大賀美紀子

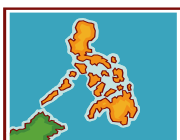
オリーブは緑滴る大地に育つものと思っていましたら、実際に見てみると厳しい環境～かんかんと照りつける太陽、剥き出しの石がごろごろするような乾いた大地に必死に根を張り枝を広げるものと知りました。私たちの北海道特別教区女性会の会・愛称オリーブの会は、正にその様ななかで共に祈り合うことで生まれ育つものとなるでしょう。会計役員と書記役を仰せつかりました。それぞれの場に置かれた教会の働きに思いを馳せ、知恵と勇気をもって道を開くことが出来ますように、主のみこころを尋ねて参りたいと心新たにしています。

見ること効くこと初めてのことばかりなれど・・・・・・・・・・・・・・・・ルーテル昆布担当 梅原裕子

今年度から、昆布会計を担当いたします梅原裕子です。長い間、めばえ幼稚園で子供たちと関わる働きをしていましたので、見ること聞くことなど… 初めてのことばかりです。

「北海道教区女性の会」の様々な働きがありますことを改めて学んでいます。経験豊かな役員の方々、会員の皆様に支えられて歩んでいきたいと思ひます。

やってみっぺし！…………



チャイルドファンド ジャパン担当 松島直子

～4月21日札幌教会に、CFJの小林毅事務局長をお迎えして～

はじめまして。このたび、北海道特別教区女性の会の協力員として、CFJを担当することとなりました松島直子と申します。20代の頃、中米でボランティア活動をしたことがあり、今回、CFJ支援を通して、再び海外協力に関わることができ、緊張と喜びを感じています。冒頭の「やってみっぺし」とは、気仙語（東北の方言）で「やってみようよ」という意味だそうです。CFJの最新パンフレットで出会ったこの言葉は、現在の私の心境であり、皆様へのメッセージでもあります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、4月21日、札幌礼拝堂に小林事務局長が来会され、教会学校と主日礼拝後にコリンちゃんの様子をお話してくださいました。優秀な成績で小学7年生に進級することになったコリンちゃんは、私たちの祝福の手紙に涙を流して“ありがとう”と感謝の気持ちを託してくれたそうです。スライドの写真からは、素敵な娘さんに成長したコリンちゃんの未来へむかっていくたくましさが伝わってきました。

コリンちゃんの住むカバツアンは、空港ができたことで経済が活性化し、コリンちゃんのお父様の収入も増えたそうです。そのためCFJは、貧困がより深刻な地域へ支援の対象を移すことになり、私たちももうすぐ新たなチャイルドを迎えることとなります。

またCFJでは、2011年の東日本大震災に際して、緊急に日本国内での支援活動も開始。ルーテル学院大学と協議をして、被災後の子供の心のケアの手引きを作成し、大きな反響があったそうです。

また岩手の仮設住宅でコミュニティ形成に関わるなど、国内支援活動をも開始しているということです。今回、その活動報告のパンフレットとDVDが各教会に託されましたので、是非、ご覧になってください。国内外を問わず、“今”困っている場所と人々のところへ出かけ、子供たちを支援するというCFJの活動に、私たちの祈りと支えが今年度も必要とされています。

震災被災地のあちこちできかれた「やってみっぺし」（やってみようよ）の言葉は、私たちにあらためてできることから始めようという勇気を与えてくれるように響いてきます。さりげない笑顔で、今年度も私たちにできる支援を、“ともに”続けていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

女性会担当牧師 坂本千歳先生よりのメッセージ

昨年度に引き続き、今年度も女性の会の担当をさせていただきます。

北海道は教会間の距離が離れていますが、主にある姉妹として横の繋がりを大切にしたいです。

教会ならではの交わり一祈りとみ言葉の分かち合いが広がり、それによって一人一人の信仰が励まされ、神様への感謝と賛美が自然と湧き上がってくるような、そんな素朴なところから始めてみたいと思います。

各女性の会のご紹介



札幌教会婦人会（札幌礼拝堂）

三つの礼拝堂から成る「札幌教会」のうち札幌礼拝堂にだけ「婦人会」というクラシックな名称を保つ会が存続しております。会員の高齢化が進み、ご病気の方が多くなりました。昨年末より今年にかけて3名の方を神様のみもとにお送りいたしました。しかし1名の新しい会員が与えられ、例会出席は12～13名です。

2年前から昼食の折りに、その月の高齢者の方（男性は80歳以上、女性は85歳以上）の誕生日を祝って、手作りシフォンケーキと一緒にいただき『こどもさんびか』116番「生まれる前から 神さまに 守られてきた 友だちの たんじょう日です おめでとう」をみんなで歌って、神様の家族としての交わりを続けております。（栗原朋友子）



函館教会 野の花の会



1964年（昭和39年）10月のある日、日野牧師夫人と増田姉とが祈りあったのが最初の婦人会でした。その後1972年（昭和47年）武村牧師が就任。ちず子夫人の時から定期的な会が持たれるようになりました。2004年（平成16年）、なるべくたくさんの方々が参加して頂きたいという願いのもと、函館教会「野の花の会」と名称を改めました。

月1回、連盟のしおりをもとに勉強会、第1火曜日に仕事会（おもにバザーの販売の為の作品作り）を行っています。 その他、聖壇のお花の準備、月1回食事の準備等・・・。（須藤幸子）

新札幌教会 ハナミズキの会

「ハナミズキ」の花はアメリカに「ソメイヨシノ」を贈って、返礼として贈られた花、「平和の使者」の意味がこめられている事をご存じの方もおられるでしょう。



私たちも小さいながら教会と教区の中で祈りを合わせ、主のみわざに用いられることを願い、会の名前となりました。教会の中の小さなことにも目配り、気配りをしていく。そして教会の活動を担いつつ、教区の皆さまとの支援活動にも出来ることで共に参加出来るよう願っております。（小川敦子）

帯広教会 すずらんの会

池田、帯広教会「すずらんの会」は今年11名で歩んでいます。毎月第4週の例会に集まれる人は多い時で6～8名です。今年は地域の為に少しでも奉仕が出来たらと願って石田姉の提案で、タオルで作る医療・介護用帽子の作成をすることを決めました。4月に作り方講習をし、50個の帽子を目標にタオル集めを教会員に呼び掛けているところです。皆と協力し合い、喜びをもって奉仕していく一年にしたいと思っています。（有働あけみ）



会計より ご報告とお願い

～チャイルドファンドジャパン支援金 プラスαの御協力を！

各女性の会の皆様には会費・感謝献金等前期分の納入ご協力ありがとうございました。
連盟に5月15日、チャイルドファンドジャパンに今年度チャイルド支援金48,000円を送金しました。

教区には、会費18,500円、感謝献金12,500円、CFJ支援金献金26,800円の入金、
連盟へは会費33,800円、会報のみ6,500円、感謝献金9,500円、リーストコイン5,562円、サバ神
学生支援献金14,500円の内訳でした。

*感謝献金は北海道いのちの電話に指定分があったので、連盟教区で半分ずつとはなっていません。

数字を見ていけばご理解いただけるように、チャイルドファンドジャパンの1人の年間チャイルド
支援献金48,000円には満たない金額で、昨年未送金して下さった分で繰越となっていた10,939円を
合わせても、10,261円を一般会計から立替えての送金となりました。

2月の総会で教区登録人数36人を考慮して1人分の協力目安を1000円にしてはどうかと論議されま
したが、各女性の会や会員の御意志を反映することで現行の650円のままとなりました。

フィリピンでは義務教育小学校課程が今年度から7年になって学制改革、なんとか教育の
環境を整え国民の底力を上げたいと努力しているようですが、入学はしても卒業を迎えら
れる子どもは60%程度とか・・・教育費が続かない家庭が多いとのこと。

日本も厳しい現実がたくさんありますが、海の向こうの子どもたちのことに思いを馳せて、なんと
か、それぞれの女性の会でCFJに対するアピールなどをして、支援金のプラスα納入に御苦心いた
だきたいとお願い致します。



<大震災被災地見学会（復興ツアー）のおしらせ>

詳細は添付いたしました別紙をご覧くださいと思いますが、
2011.3.11の大震災以来、ルーテル教会でもさまざまな復興支援をしてきましたが、
“ルーテル支援センターとなりびと”の野口牧師より、復興支援の一環として、被災地見学会の案内
が届きました。

オリーブの会といたしましては、3名以上の希望者があれば、本州の暑さが一段落する9月下旬頃
現地見学のツアーを行いたいと思います。（最終的な日にちは、参加希望者で相談。また、モデルプラ
ンにあります“日帰り”というのは北海道からの場合、“1泊2日”となります）

別紙ご案内の通り、仙台までの移動とホテルの手配は、各自でご手配、また費用についても各自負
担でお願い致します。

参加をご希望の方は、6月末までに、近藤へお知らせください！



～教区女性の会 これからの主な予定～



チャイルド・ファンド・ジャパンの新しい里子が6月に決まります！



教区こどもキャンプ(7/31水)～8/1(木)

キッチンスタッフを募集します！

(教区子どもキャンプ委員会より詳細依頼が来ましたら、あらためてお知らせいたします。)



昆布作業は9/10(火)、10/8(火)札幌北礼拝堂で10時から

ら

作業をしながら楽しい交流の場としましょう！



10/13(日) 女性の会交流会/ 修養会の前日夕方から

皆で楽しい夕食会をしましょう。(詳細は後日、お知らせ)



10/12～27 つるし雛 巡回 <札幌→帯広→函館>

全国から寄せられた生地を使って、東北大震災の被災地の方々が作られた“つるし雛”が出来上がって、4月から全国を巡回しています。

北海道には10月巡回決定！

一日神学校の時にも、ご披露しま

す.....

@あとながき



オリーブニュースは教区女性の会の交流の一環として発行をしていきたいと思っております。それぞれの女性の会でありました出来事やお知らせしたいことがありましたら、是非お気軽に近藤までお寄せください。

近藤：FAX 011-663-8933

e-mail: k-masako@ba2.so-net.ne.jp